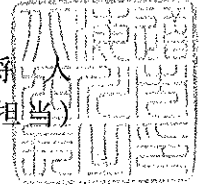


旭 土 総 第 9 4 号
平成20年10月10日

国土交通省道路局長 様

旭川市長 西 川 将 人
(土木部土木総務課担当)



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案の提出について（依頼）」につきまして、別紙のとおり回答します。

担当者
旭川市土木部土木総務課 浜
TEL:0166-26-1111 (内 5514)
FAX:0166-24-7010

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道 旭川市

- (1) 道路整備に必要な財源の確保と補助制度の新設及び拡充について
道路特定財源については、平成21年度からの一般財源化に向け、その取扱いが議論されているところですが、一方、地域住民の道路整備に対する様々な要望は従来と何ら変わっておらず、その内容も多岐にわたっています。
このことから、道路整備に要する財源については、引き続き必要額を確保していただくとともに、既存の補助制度の継続や採択基準の緩和等、地域の考え方や創意工夫が速やかに反映され、スピード感のある事業展開が可能となるような仕組みづくりをお願いします。
特に、維持管理に関しては、補修更新や雪堆積場の整備等を対象とした新たな補助メニューの設定や、除雪事業を対象とする補助制度の市町村道への拡充など、補助制度の新設・拡充について検討をお願いします。
- (2) 道路の維持管理における各道路管理者及び地域住民との連携・協働について
国をはじめ、都道府県や地方自治体において財政状況が厳しい中、たとえば、市街地における道路管理について、国道、道道、市道といった各道路管理者による線的な維持管理ではなく、面的にエリアを設定して効率的・効果的な維持管理を行う等、各道路管理者の工夫と連携が必要と考えます。
また、歩道の清掃や冬の除排雪等の維持管理については、行政と地域住民により協働がより必要な時代となることから、広報・啓発活動の継続的实施などにより地域住民が「協働」の趣旨を理解し、率先して取り組むことができる体制づくりが必要と考えます。
- (3) 観光振興への寄与について
道路案内標識や道の駅での情報提供により、駅、空港、観光拠点などへのアクセス向上を図るとともに、高速道路料金の引き下げを行い利用者の負担を低減する等、地域活性化のため、道路から観光振興への積極的な支援が必要と考えます。
また、併せて電線類地中化事業の促進や不法広告物の撤去など景観の保護や歴史ある橋梁などを文化資産として整備し、地域の財産にするとともに、道路景観そのものを観光資源とする施策展開も必要かと思われまます。
- (4) 地球環境の保全に対する取り組みについて
世界規模で地球温暖化が大きな問題となっており、国内外を問わず環境破壊や異常気象が多発していることから、環境保全への取り組みが重要となってきています。
このことから、道路行政としても、アイドリングストップなどの広報・啓発活動や渋滞対策を講じることによりCO₂の削減を図る等、地球環境への配慮に早急に取り組みが必要であると考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える問題
NO. 1

様式 ②

北海道 旭川市

○現 状	○課 題
【都市間交通網の形成】 広域分散型の地域社会を形成している北海道は、都市間距離が全国平均の約2倍と長く、地域の産業活動や交流活動の発展を阻害する一因となっておりま。 本市においても北海道の中核市として、各生活経済圏との更なる交流を望んでいますが、地域間の移動に伴う時間の短縮や冬期間の安全確保等、解決すべき問題があります。 【都市内交通の円滑化】 本市においては、市街地に集中する交通を分散・誘導するため、2環状8放射型の都市計画道路網の整備を進めてきておりますが、市道となる都市計画道路の整備率は未だ57%弱に留まっております。 また、全国的な人口減少・超高齢化社会の到来を踏まえ、コンパクトな都市空間の形成が必要とされており、中心市街地への都市機能の集積を柱とする「コンパクトシティ」実現に向け、対応が求められております。	各地域が相互に発展を遂げるための手段として、高速交通ネットワークの整備は解決すべき課題の1つです。 高速交通ネットワークの整備は、自動車の高速交通の確保のみならず、公共サービスの地域間格差解消、緊急用道路や代替道路としての位置付け及び空港・港湾への連結による、近隣地域の観光施設や豊かな自然環境を活かした観光資源へのアクセス交通への配慮といった地域間高規格道路の基盤となるものであることから、「高規格幹線道路」や「地域高規格道路」の早期整備を進めていただきたいと思っています。 また、地域間において整備を要する国道・道道についても、引き続き着実な整備を行う必要があります。 現在、本市においては、JR旭川駅を含めた中心市街地の活性化を目的に、「北彩都あさひかわ」事業を進めており、関連する都市計画道路について整備を進めています。 引き続き、都市防災の向上や良好な景観の確保を意識しつつ、厳しい財政状況のもと、都市内交通の円滑化や安全確保等を目的とした都市計画道路路網の整備を進める必要があります。

○現 状	○課 題
【冬期間における交通の確保】 半年近く雪とともに暮らす旭川市民にとって、冬期間における円滑な道路交通網の確保や快適な生活環境の創造は切実な願いであり、本市においても、効率的な除排雪作業の実施や適切な融消雪施設の配置について努力しているところでもあります。 少子・高齢化社会を迎え、歩行弱者の増加や除雪作業の担い手不足が懸念されており、これらを踏まえ、歩行弱者の増加や除雪作業の推進が、ますます重要となっております。 【社会資産の効果・効率的な運用】 「川のまち」旭川には、大小を合わせ約130本の河川が市内を流れるとともに、併せて約600橋の橋梁が存在しますが、厳しい財政状況のもと、これら橋梁の老朽化に伴う補修も含めた維持管理が大きな問題となります。 また、生活道路を中心とする市道においても、経年使用による舗装等の劣化や既設ロードヒーティングの老朽化に対応を要する状況であり、いわゆる社会資産の効果・効率的な運用『アセットマネジメント』の早期導入が必要となっております。	総合的な雪対策事業を進めるに当たっては、適切な除排雪作業の実施やロードヒーティングの設置等、所要の施策を行う必要がありますが、本市においては昨今の厳しい財政状況の中、維持管理費の捻出が年々困難を来しており、安定した財源の確保は緊急の課題と言えます。 積雪寒冷地における冬期間の交通確保は、個人の生命、社会経済に関わる最重要課題の1つであることから、これら雪対策についての恒常的な補助制度確立が望まれます。 「建設から維持管理の時代への転換」を迎えるに当たり、本市の厳しい財政状況を踏まえ、地域の課題を適確に捉えつつ、道路や公園等、市民生活に身近な社会資産について、地域と行政が一体となり維持管理を協働で進めていくことが地域の課題と言えます。 これらの実施には、施策の方向を定めた上で、市民と行政それぞれ役割分担を明確にし、該当施設の「情報収集及び分析」、「情報の共有」や「事業の選択と集中」といった手順を踏みつつ、長期的視点に立った取り組みが求められるところであり、維持管理を対象とした新たな補助制度の確立が望まれます。

旭川市では、平成１８年度に「第７次旭川市総合計画」を策定し、本計画において以下の都市像と基本目標を掲げております。

◎都市像 『人が輝く 北の文化のかおる まち』 （市民と行政が共に目指す将来像）

- | | | |
|------|---|---------------------|
| 基本目標 | １ | 愛着と誇りを持ち、市民が活躍するまち |
| 基本目標 | ２ | 人のやさしさとやすぎを実感するまち |
| 基本目標 | ３ | 人が行き交い、元気な経済が展開するまち |
| 基本目標 | ４ | 市民主体の健全で公正な自治の運営 |

本市では、当該総合計画に基づき、北海道の中核市として、交通網や情報通信基盤などの集積を生かした北の拠点としての機能を高めることを目標に、中心市街地の賑わいづくりや身近な生活圏の充実、バスや鉄道など公共交通機関の利用促進を図るなど、交通弱者や環境に配慮したまちづくりを進めることとしています。

特に、市民生活や産業活動を支える交通については、一定の整備が進んだ旭川空港や高規格幹線道路をはじめとする骨格道路網と、旭川駅を中心としたＪＲ路線網により、内外の交通を促す有機的なネットワークの形成を目指しており、現在、中心市街地の活性化も含めた「北彩都あさひかわ」事業を進めているところです。

そのような中、生活道路を中心とする市道整備においても、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、『歩行者の安全を優先させた道路整備』を基本に、路線のバリアフリー化や狭隘路線の解消及びロードヒーティングの整備等に努めているところであり、快適性と利便性の高い生活環境の創出を目指しているところです。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

北海道 旭川市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他 【様式2-1との対応】
地域活力の向上	◎旭川紋別自動車道 上川上越道路（高規格） ◎旭川十勝道路（地域高規格） （旭川北I・C～旭川空港～富良野～占冠）	・都市間移動の利便性向上 ・緊急医療に対する効果的な対応 ・空港・港湾施設との連結による相互作用 ・全線接続による経済、観光への波及効果 ・通過型観光から滞在型観光への転換	都市間交通網の形成
都市交通の快適性、利便性の向上	◎北彩都あさひかわ整備事業 ・JR旭川駅周辺の開発整備 ・行政拠点施設（シビックコア）の整備 ・新たな街区の形成	・中心市街地への公共施設、住機能、商業機能などの都市機能の集積 ・既成市街地の都市機能の適正配置 ・中心市街地の賑わいづくり	都市内交通の円滑化
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	◎中心市街地における仲通りを中心としたロードヒーティング施設の整備	・中心市街地を利用する市民や観光客等、歩行者の安全・安心の確保 ・歩行者の利便性及び満足度の向上 ・観光客の市中心部への積極的誘導	冬期間における交通の確保
計画的・効率的な維持管理や更新の推進	◎橋梁点検及び補修 ◎中央地区流雪溝施設の補修更新	・社会資産である公共施設の延命 ・災害や事故の未然防止 ・計画的実施による予算の効率的執行	社会資産の効果・効率的な運用